

## 北大西洋海底堆積物コアから得られた北半球大陸氷床発達期 (MIS100) の高解像度岩石磁気記録

# 大野 正夫 [1]; 林 辰弥 [2]; 山下 剛史 [1]; 桑原 義博 [1]  
[1] 九大・比文・地球変動講座; [2] 国立科学博物館・地学研究部

### High-resolution rock magnetic records during MIS 100 from a sediment core in the North Atlantic

# Masao Ohno[1]; Tatsuya Hayashi[2]; Takafumi Yamashita[1]; Yoshihiro Kuwahara[1]  
[1] Division of Earth Sciences, SCS, Kyushu Univ.; [2] National Museum of Nature and Science

We report the preliminary results of rock magnetic studies of a sediment core in the North Atlantic (IODP Site U1314). We have investigated the millennial-scale bottom current changes during the period of intensification of Northern Hemisphere glaciation analysing various rock magnetic parameters.

我々は北大西洋アイスランド沖ガーダードリフトの堆積物コア (IODP Site U1314) の岩石磁気分析により、北半球の氷床発達期における古気候・古海洋の研究を行っている。この堆積物試料は平均約 10cm/kyr という非常に速い堆積速度を持つので、その詳細な分析を行うことで、この時期における千年スケールの古気候・古海洋変動が明らかになると期待される。

今回は特に MIS (酸素同位体ステージ) 100 の氷期の分析結果の序報を述べる。このコア試料の初磁化率の測定結果には、氷期に卓越する数千年スケールの急激な減少がみられるが、自然ガンマ線のデータとの比較や他のサイトの研究結果との比較などから、この急激な変化は冰山起源の漂流岩屑堆積物 (IRD) 由来である可能性が強く示唆される (Hayashi et al., 2010)。今回分析の対象とした MIS100 の期間中にもこのような初磁化率の急激な変化が数回見られるが、それに対応して保磁力や初磁化率の周波数依存性および異方性に変動がみとめられた。これらの変動は IRD の到来に対応して、深層流の流速や流向が変動したことを示唆しており、今後、詳細な解析に基づいて検証する必要がある。さらに今後、漂流岩屑堆積物の分析を進めるとともに、堆積物中のナンノ化石や化学成分の分析を加えて、北半球の大陸氷床発達時における海洋循環の変遷史を明らかにしてゆく予定である。